

1801: ピョトロヴィツェで、プロポリスを紛失したはずだが、違うようだ。

1802: 猫の鳴き声は、平均的にはニャーニャーですね？

1803: ヴォロナ君、熟睡したけりゃ、別室にソファがありますよ。

1804: フェデラーは、極度の怖がりである自分を省みました。

1805: 授業でも役立つウィジェットは、軒並み覚えています。

1806: 錦衣玉食の暮らしは、様々な病気の引き金になりますよ。

1807: ウィッグをつけた女神に会えるなら、毎日仮病を使います。

1808: あのと時墨汁を使ったと、虚偽を述べましたね。

1809: あれ、しゃぶしゃぶの食材は、テーブルに置いたと記憶してたのですが。

1810: ティーヴォリがアリューションへ行き、マルティヌーも付き添います。

1811: グォさんは、里では知られた顔で、皆から挨拶されます。

1812: ヴィヴァルディの四季を、袖が長い黒シャツを着て弾きます。

1813: そのデマの拡散元は、ビューヒェルベルクのネカフェみたいです。

1814: 中国の、ディディクゥアイダって会社の規模は、圧巻です。

1815: デャデュンは、ビューマーから立派な蔵を譲り受けました。

1816: ここから東に真っ直ぐ進むと、プロスクイーリウって町があります。

1817: 無敵に見えるウォジミエシュですが、デバフが効くんですよ。

1818: 一目悪手に見えましたが、窮地をひっくり返す好手です。

1819: キェルツェに住むリヤードフは、狭量ではなく視野が広いです。

1820: ヴェルナーとクェスは気が緩み、スイノプで拉致されました。

- 1821: セミョノヴィチ・ヴィゴツキーは、ピアディーナを^{きら}嫌っています。
- 1822: サンスクリット語^{ごけん}圏で^{はたら}働^きき、テョやテャ、デャやデョの^{はつおん}発^し音を^し知りました。
- 1823: ガーズィーブルでの^{けっこん}結^{なこうど}婚、仲^{なこうど}人はビュイヤールさんだったんです。
- 1824: ^{かほ}夏帆はギリギリになって、パパへのプレゼントを^{せびろ}背^き広に決めました。
- 1825: ^{わた}渡^{かんばん}るべからずとの^で看^で板があるのは、ぬりかべが^で出^でるからのようです。
- 1826: グィディッチオーニは、^{きよぜつ}拒^{くぎょう}絶^{きょうふ}できない^{からだ}苦^{ふる}行への^{から}恐^ふ怖で、^{からだ}体^{ふる}が震えます。
- 1827: ビュービュービュービュー^な鳴^{かぜ}る^{ろくが}風^{むずか}の録^{むずか}画^{むずか}って、やっぱ^{むずか}難^{むずか}しいですかね？
- 1828: あの、このスーツはウォッシュャブルだと^{うかが}伺^{うかが}ってたのですが。
- 1829: ^{さきほど}先^{さきほど}程^{さきほど}ニュングェですれ^{ちが}違^{えんび}った、^{かた}艶^み美な^み方^みがお見^みえになっ^みてます。
- 1830: ^{ぼく}僕は、^{きよじゅう}ビュ^{きよじゅう}ラシュニツァに^{きよじゅう}居^{きよじゅう}住^{きよじゅう}する、^{もう}ジャ^{もう}ハンギルと^{もう}申^{もう}す^{もの}者^{もの}です。
- 1831: ^{かいぎ}会^{おも}議^{ほかなが}が^{ほかなが}思^{ほかなが}いの^{ほかなが}外^{ほかなが}長^{ほかなが}い^{ほかなが}のは、^{ほかなが}き^{ほかなが}っと^{ほかなが}フ^{ほかなが}ォ^{ほかなが}レス^{ほかなが}ティ^{ほかなが}エ^{ほかなが}が^{ほかなが}ご^{ほかなが}ね^{ほかなが}て^{ほかなが}る^{ほかなが}ん^{ほかなが}で^{ほかなが}し^{ほかなが}ょう^{ほかなが}ね^{ほかなが}。
- 1832: ^{ぶっそう}物^よ騒^よな^よ酔^よっ^よ払^よいが^よ闊^よ歩^よする^よゾ^よーン^よだ^よか^よら、^よド^よパ^よル^よデ^よュー^よも^よ気^よを^よ付^よけて。
- 1833: ^{あず}ステ^{あず}ル^{あず}ヴィ^{あず}オ^{あず}・^{あず}ヴェ^{あず}ロー^{あず}チェ^{あず}を^{あず}預^{あず}か^{あず}った^{あず}が、^{あず}ヴィ^{あず}オ^{あず}と^{あず}略^{あず}して^{あず}呼^{あず}ん^{あず}で^{あず}い^{あず}ま^{あず}す。
- 1834: ^かフォ^かスター^かは、^かチ^かョ^かベ^かリ^かグ^かと^か書^かか^かれた^か凡^か例^かを、^かグラ^かフ^かに^か追^か加^かし^かま^かし^かた。
- 1835: ^うグ^うウ^うエ^うイン^うか^うら^う受^うけた^う細^うかい^う傷^うを^う癒^うす^うた^うめ、^う病^う院^うへ^う行^うき^うま^うす。
- 1836: ^{けん}ニ^{けん}ュー^{けん}デ^{けん}ィ^{けん}ゲ^{けん}イト^{けん}さ^{けん}ん^{けん}の^{けん}件^{けん}、^{けん}そ^{けん}ろ^{けん}そ^{けん}ろ^{けん}話^{けん}を^{けん}進^{けん}め^{けん}ま^{けん}し^{けん}ょ。
- 1837: ^{きんしゅ}ペ^きト^きウ^きラ^きが^き禁^き酒^きす^きると^き聞^きき、^き即^き座^きに^き無^き理^きっ^きし^きょ^きっ^きて^き言^きっ^きち^きゃ^きっ^きた^きよ。
- 1838: ^のミ^のュ^のン^のヒ^のェ^のン^ので^の飲^のんだ^の紹^の興^の酒^のの^の味^のが、^の忘^のれ^のら^のれ^のま^のせ^のん。
- 1839: ^{さま}ブ^{さま}ロ^{さま}ニ^{さま}ェ^{さま}フ^{さま}ス^{さま}キ^{さま}様^{さま}は、^{さま}別^{さま}館^{さま}に^{さま}案^{さま}内^{さま}さ^{さま}せ^{さま}て^{さま}頂^{さま}き^{さま}ま^{さま}す。
- 1840: ^{あなた}貴^{あなた}方^{あなた}の^{あなた}主^{あなた}義^{あなた}は^{あなた}分^{あなた}か^{あなた}った^{あなた}の^{あなた}で、^{あなた}ま^{あなた}ず^{あなた}ナ^{あなた}ン^{あなた}デ^{あなた}ィ^{あなた}ウ^{あなた}ォ^{あなた}ー^{あなた}山^{あなた}脈^{あなた}を^{あなた}登^{あなた}る^{あなた}か^{あなた}決^{あなた}め^{あなた}ま^{あなた}し^{あなた}ょ。
- 1841: ^{きよく}そ^{きよく}の^{きよく}巨^{きよく}軀^{きよく}が^{きよく}繰^{きよく}り^{きよく}出^{きよく}す^{きよく}一^{きよく}撃^{きよく}に、^{きよく}ポ^{きよく}パ^{きよく}ィ^{きよく}の^{きよく}視^{きよく}野^{きよく}が^{きよく}狭^{きよく}窄^{きよく}し^{きよく}て^{きよく}い^{きよく}き^{きよく}ま^{きよく}し^{きよく}た。

1842: ペトリューラは^{けはい さと}気配を^に悟られず、^{せいこう}逃げることに成功しました。

1843: ウィミョンは^{がくしゃはだ}学者肌だが、^{はくしごう と}博士号を取るつもりは^な無いようです。

1844: ギョルギでしたら、^{あね}ピャニーガの姉の^{ところ ひ}所へ^こ引っ越しました。

1845: ^{おのれ こぶ}己を鼓舞し、^{しょうぶ か}チャヴァリアとの勝負に勝ってくださいませ。

1846: パジャリは^{ゆび なが きよう}指が長く器用なので、^{てきせい}ピアノの適性があるでしょう。

1847: ^{がれき てつきよ きよ}瓦礫の撤去に寄与したのは、ウェスパシアーススさんです。

1848: ヴァシーリエヴィチ様の、^{さま じんそく しより}迅速な処理には、^{あたま あ}頭が上がりませぬ。

1849: テョと^よ呼ばれるある^{せんしゅ}選手は、^{かげき れんしゅう た}過激な練習に耐えています。

1850: ビュザンティオンで、^{つく}ブブゼラを作るシェリーに、^{けいい しめ}敬意を示します。

1851: クェスブでしたら、^{くり}庫裏で^{じゅんび}ビールの準備をしてるはずです。

1852: あー、ファブリツィオの^{ことば ずいしょ}言葉の随所に、^{ひん よ}品の良さが^で出てますね。

1853: ^{ひゅううつ うつく か}彪蔚の美しさを^{おも}描くことにしたが、思ったようになりませぬ。

1854: ぬー、^{てんません ゆらい}伝馬船の由来を、^{せつめい}ヴェチェッリオにどう説明しようかしら。

1855: レゾビエが^{つく}作る^{ここんどつぽ}ギュベチは、古今独歩のクオリティですぜ。

1856: ジェディディアは^{ひょうひょう}飄々としてますが、^{ふじゅ かげぐち たた}腐儒と陰口を叩かれてます。

1857: トゥーパリエフの^{ち ずぬ}知は^{ぶか あい}頭抜けており、部下に^{いや}愛されながらも卑しまれました。

1858: ^{せつな かいらく おぼ だらく}刹那の快樂に溺れて^{はいぼく}墮落とは、カスティーリョも敗北ですな。

1859: デュピュイは、^{たびかさ ばか しう}度重なる馬鹿げた仕打ちに、^{むほん かくご き}謀反の覚悟を決めます。

1860: ギョルギョンは、^{ともだち}ボランティアで^{よろこ}友達ができて喜びました。

1861: ^{かぐら ま}神楽を舞う^{はな}ドウウォーキンの華やかさは、^{もはや きゅう}最早レジェンド級です。

1862: ジャングルでは^{かい て はい}貝が手に入りにくく、^{かかく たか}価格が高くなりがちです。

- 1863: ああ、ヤギェウォ^{だいがく}大学^{しゅうへん}の周^{のざら}辺^{じてんしゃ}で、野晒しにされた自転車ね。
- 1864: あのペンションでは刺殺事件があり、まだ客^{きやく}足^{あし}は戻^{もど}っていません。
- 1865: えー、モーペルテュイって、アーチェリーが死ぬほど下手^しなんですよ？
- 1866: ビヤチェフラフだって馬鹿^{ばか}じゃないし、調^{しら}べても無駄^{むだ}ですよ。
- 1867: グァンスは己^{おのれ}を統御^{とうぎよ}し、大いなる野望^{おお}を成^{やぼう}し遂^なげました。
- 1868: シャルパンチェって哺乳瓶^{ほにゅうびん}で、授乳^{じゅにゅう}した実績^{じっせき}ありましたっけ？
- 1869: エツェルの兵^{へい}は、病人^{びょうにん}からも容赦^{ようしゃ}なく略奪^{りやくだつ}しています。
- 1870: ツァヒャーギーンは、子供^{こども}が産まれそうだからと、チャリで帰宅^{きたく}しました。
- 1871: ミヤスコフスキーの予知^{よち}は、百^{ひゃく}発^{ぱつ}百^{ひゃく}中^{ちゅう}で実に見事^{じつ みごと}です。
- 1872: やっぱり、ピエトラシャクと出会^{であ}えた縁^{えん}には、感謝^{かんしゃ}ですね。
- 1873: 螺子^{ねじ}が固^{かた}く、シェヴロレーが力^{ちから}任^{まか}せに緩^{ゆる}めました。
- 1874: 客^{きやく}に出^だしたジャージャー麺^{めん}に、虫^{むし}が入^{はい}っていたそうです。
- 1875: ゼルヴァツィウスは、キャベツの葉^はより茎^{くき}を好^{この}んで食^たべます。
- 1876: 阿弥陀如来に代わる仏^{あみだによらい か}を、私^{わたし}はまだ存^{ぞん}じませぬ。
- 1877: 五時限目^{ごじげんめ}は座学^{ざがく}なので、宿題^{しゅくだい}のチェックを済^すませましょう。
- 1878: プラザでは、伸びる杖^{の つえ}の手品^{てじな}を披露^{ひろう}してますよ。
- 1879: 水道^{すいどう}が逆^{ぎゃく}流^{りゅう}し、飲料水^{いんりょうすい}の確保^{かくほ}すら厳^{きび}しいです。
- 1880: 夜食^{やしよく}に、カトリューティを作^{つく}らせておりますので、母屋^{おもや}にどうぞ。
- 1881: ブリュッヒャー様^{さま}は、我が社^わのスポンサー、くれぐれも丁重^{ていちょう}にね。
- 1882: 完璧^{かんぺき}なフュージョンには、ウエンとウォンの存在^{そんざい}が不可欠^{ふかけつ}です。
- 1883: 雑居ビル^{ざっきよ}から、チェジャのヴォーカルが、雑音^{ざつおん}に混^まじって聞^きこえます。

1884: 蒸^むらす料^{りょう}理^りでしたら、中^{ちゅう}華^かの真^{しん}骨^{こつ}頂^{ちよう}ですぞ。

1885: ミクシィで集^{つど}ったミュイと、バグギヤモンでギャンブルし負^まかされました。

1886: 僕^{ぼく}はナイフを研^とぎ、ウェイヴのロゴを入^いれてお渡^{わた}しします。

1887: 根^ねが張^はっている植^{しょく}物^{ぶつ}を、ヘンリーが強^{ごう}引^{いん}に引き抜^ひきました。

1888: ニカラグアに、段^{だん}ボールを十^{じゅう}箱^{ばこ}発^は送^{そう}しておかなきゃ。

1889: 神^{しん}仏^{ぶつ}を貴^{とう}ぶことは、大^{たい}切^{せつ}なのです、ヨゼフィーネ様^{さま}。

1890: その病^{びょう}状^{じょう}でしたら、牡^ぼ丹^{たん}皮^{かい}で改^{かい}善^{ぜん}すると思^{おも}います。

1891: ファトゥミルは、労^{ろう}働^{どう}協^{きょう}約^{やく}を締^{てい}結^{けつ}し、アルバイトを始^{はじ}めました。

1892: プロデョーヌのメンバーに、紫^し蘇^そを巻^まいた寿^す司^しを贈^{おく}りました。

1893: メドヴェージェフさん、究^{きゅう}極^{きよく}のジェノベーゼができたって？

1894: ディデューは手^て加^か減^{げん}が下^へ手^たですから、児^じ戯^ぎでも大^お人^{とな}げなく潰^{つぶ}しちゃいます。

1895: 札^{ふだ}付^つきの不^ふ良^{りょう}だったウィルチェクが、今^{いま}や部^ぶ活^{かつ}のレギュラーです。

1896: トルクアトゥスの企^{たくら}みを、瞬^{しゅん}時^じに喝^{かつ}破^ぱできるとは、流^{さすが}石^{いし}ですね。

1897: ペツオッタイトを、亡^なき祖^そ母^ぼからの遺^い物^{ぶつ}として拝^{はい}受^{じゅ}しました。

1898: ミャオリージェは掘^{くっ}削^{さく}に慣^なれず、三^{みつ}日^{にち}目^めからサボリ始^{はじ}めました。

1899: 供^{きょう}述^{じゆつ}によると、ミャスィーシチェヴァは、別^{べっ}室^{しつ}で縛^{しば}られてるとのことです。

1900: リャプノーフは初^{しょ}志^しを貫^{つらぬ}き、ボイスチェンジャーの研^{けん}究^{きゅう}を続^{つづ}けます。

1901: 開^{かい}票^{ひょう}の結果^{けつ}、フエーヴルは一^い票^{ひょう}差^さで落^{らく}選^{せん}した。

1902: 薔^{ばら}薇^ゐのパフュームには、妖^{よう}術^{じゆつ}じみた怪^{あや}しげな魔^{まり}力^{りよく}がある。

1903: ブリュギエールなら質^{しつぎ}疑^ぎはバッチリだから、俺^{おれ}らは遊^{あそ}ぼうぜ。

1904: アークェットのペーパーを、派^は手^でに誤^ご訳^{やく}した間^ま抜^ぬけは誰^{だれ}だ。

- 1905: ウォーデルは、自分の補助が前提のヘーフェルに、辟易してきた。
- 1906: ヘズルティンはシャイで、人前に姿を見せることも稀である。
- 1907: ハイレゾオーディオコンポが壊れたと、ディヴォックは自嘲気味に話した。
- 1908: トゥーシャーの素朴な疑惑が、マニュアルに加筆させる呼び水となった。
- 1909: 親の呪縛にもがき苦しむヴァーホーヴェンを、処罰せんでほしい。
- 1910: ムツツェンバハーが正義を説き、パイパイ喧しい奴らを黙らせた。
- 1911: 急遽舞台がキャンセルとなり、ウィラ様も立腹の御様子だ。
- 1912: キャドヴァラダーは、川の氾濫に巻き込まれずに済んだ。
- 1913: ティージェンが、オモチャのプロペラを回し、ルービックキューブで遊ぶ。
- 1914: 弱点の克服は、ブローディが二流から脱却するのに必須です。
- 1915: ツィットグロッグの主は、飢餓をゼロにする活動を支持する。
- 1916: 水不足の街で、シェミエノヴィチが井戸を掘りあてたとな。
- 1917: 呪術を訝しむのは分かるが、侮辱や冒瀆はするなよ。
- 1918: 醜いと蔑まれても、チューリップを踏み潰す癖が直らぬ。
- 1919: うーん、僕らはヴァシェやウィザーらと、グループを組めるかな？
- 1920: イェウパトリーヤのヘウスラーは、謹厳実直な人柄と聞いちよるよ。
- 1921: イェヴティッチが更迭とは、青天の霹靂だったぜ。
- 1922: 兵糧攻めで、我が軍の戦力は削がれ、参謀は蹲る。
- 1923: ジョセッフィの不手際なら、会議で諮ることにしてくれ。
- 1924: セツツァが蚕糸からポロシャツを作ったが、サイズが緩かった。
- 1925: ちょっとジェロメウさん、ニャキュサ語で「バズる」って伝えてよ。

- 1926: シイルの^{ほうぎよく}宝^ゆ玉^ちが、茹^ゆでたパプリカとプラムで治癒すると伝^{つた}えた。
- 1927: なあ、「僕^{ぼく}は親不孝^{おやふこう}でえす」なんて、自慢^{じまん}にやらんぜ。
- 1928: くうちゃんは、ミヒヤエルから延々^{えんえん}と求^{きゅう}愛^{あい}され、頬^{ほほ}を赤^{あか}らめた。
- 1929: ヒュームが炊^たいた米^{こめ}を、平然^{へいぜん}とヘルベルガーが食^たべる。
- 1930: 凹凸^{おうとつ}の激^{はげ}しいオブジェだけど、微妙^{びみょう}に愛着^{あいちゃく}が沸^わくね。
- 1931: ブラキプテリギウスの化石^{かせき}のチェックなら、このパスを持^もちなさい。
- 1932: 芳醇^{ほうじゅん}ペコリーノは、ヘリウオードがヘビロテで使^{つか}ってる。
- 1933: ピョクケスは結^ゆっていた髪^{かみ}を切り、短髪^きに戻^{たんぱつ}した。
- 1934: ここから逆転^{ぎゃくてん}するには、チョリソと魚肉^{ぎょにく}を何^{なん}とかしなければ。
- 1935: 二十歳^{はたち}になったゲーゼの夢^{ゆめ}は、死ぬ^しまでにグィネヴィアへ行^いくことである。
- 1936: 鼓^{つづみ}を鳴^ならし、方々^{ほうぼう}に義賊^{ぎぞく}の侵入^{しんにゅう}を知らせた。
- 1937: 歯止^{はど}めが利^きかぬ悪鬼羅刹^{あつきらせつ}の処罰^{しょばつ}、是非^{ぜひ}ともお任せ^{まか}あれ。
- 1938: 主役^{しゅやく}の木っ端武者^{こばむしゃ}が、雪月夜^{ゆきづきよ}に勇気^{ゆうき}を出^だし己^{おのれ}を鼓舞^{こぶ}する。
- 1939: ベトナムでニョクマムが売買^{ばいばい}されており、ペネロペがわざわざ買^かいに来^きた。
- 1940: ズィーアンへの出張^{しゅつちよう}が決^きまったが、旅費^{りょひ}が捻出^{ねんしゅつ}できず自腹^{じばら}になる。
- 1941: 滅茶苦茶^{めちゃくちや}だが、サラハスィーは元手^{もとで}の百^{ひやく}万^{まん}を、ギャンブルに突^つっ込^こむ。
- 1942: デヤンティは、くも膜下出血^{まっかしゅつけつ}を患^わったが、手術^{しゅじゅつ}で治癒^{ちゆ}したよ。
- 1943: クィリチは祖母^{そぼ}が危篤^{きとく}となり、急遽^{きゅうきよ}ベリトゥンへ赴^{おもむ}く。
- 1944: ポピーレッドの扇^{おうぎ}が、ザビエルのトレードマークだと覚^{おぼ}えることだな。
- 1945: ペPPERでピリピリしたパイを出^だした、柳生^{やぎゅう}駅のシェフ^{えき}を許^{ゆる}さない。
- 1946: 金春流^{こんばるりゅう}の始祖^{しそ}が誰^{だれ}か、キュベレは閨雲^{やみくも}に調^{しら}べた。

1947: ウィジェラトネは、^{きんぼうげ}金^よ鳳^な花^わの呼び名が分らず、^{じしょ}辞書^ひを引く。

1948: ウチの店、^{みせ}長^{ながねん}年^{めじるし}エゾタヌキのマークが目^{えいぎょう}印^{えいぎょう}で、^{えいぎょう}営業^{えいぎょう}してたさ。

1949: ベレニエショヴァーの^{たゆ}弛^{どりよく}まぬ^{たんぶく}努力^{たんぶく}に、ユギヨムは嘆服した。

1950: ザハウィの、テヨとデヨの付く^つ言葉^{ことば}を探^{さが}す^{しゅうねん}執^{かんぶく}念^{かんぶく}に、感服ですよ。

1951: 評^{ひょうばん}判^よの良^{えんじゃ}い^{えんじゃ}演^{えんじゃ}者^{えんじゃ}であつたが、ヒヨヨンは^{きげん}機嫌^{そこ}を損^{きげん}ねた。

1952: 道路が^{どうろ}舗装^{ほそう}され、ザンボーニは^いボジョレーヌーヴォー^いで祝^いった。

1953: ジャンボパフェをペロツと^{たい}平^{いぶくろ}らげた^{うちゅう}ホッペの胃^{うちゅう}袋^{うちゅう}は、宇^{うちゅう}宙^{うちゅう}なのか。

1954: 百^{ひゃくねんまへ}年^{はす}前^{はんも}に蓮^{いま}が繁^{みやくみやく}茂^{せいちょう}し、今^{つづ}も脈^{つづ}々^{つづ}と生^{つづ}長^{つづ}を続^{つづ}ける。

1955: 平成^{へいせい}十^{じゅう}九^{きゅう}年^{ねん}から、フォンツイは^げ外科^{かい}医^{けんむ}も兼^{けんむ}務^{けんむ}しだした。

1956: ペリエシャツで開^{かいさい}催^{そうごん}された^{しきてん}莊^{しゅう}嚴^{つせき}な式^{しゅうつせき}典^{しゅうつせき}に、ギュミルが出^{しゅうつせき}席^{しゅうつせき}した。

1957: このゲームは良^よくて引^ひき分^わけだけど、まだビェリツァのヘルプは^い要^いる？

1958: ヴォラピュクを^{まな}学^{いんゆ}び、引^{むずか}喩^わの難^わしさが分^わかってきた。

1959: ユグオンなら、マウピティでの^{しつぱい}失^{はんせい}敗^{はんせい}を反^ふ省^{かつ}し、復^ふ活^{かつ}したぜ。

1960: イヴァシュキエヴィッチは^{しゃくほう}釈^{しゃくほう}放^{しゃくほう}され、ポトフとパナシェで^{かんばい}乾^{かんばい}杯^{かんばい}した。

1961: ミリヴォイェヴィッチよ、明日は^{あす}明^{みょう}朝^{ちよう}から、トラーヴェミュンデに出^{しゅうぱつ}発^{しゅうぱつ}だぜ？

1962: 欧^{おう}米^{べい}との比^ひ較^{かく}で、フィツァーは^{ぼこく}母^{ぼこく}国^{ぼこく}の没^{ぼつ}落^{らく}を認^{みと}めた。

1963: グァンギュは、メディカルチェックで^{あまた}数^{かん}多^{じゃ}の患^{すく}者^{すく}を救^{すく}った。

1964: ラサルハグエは^ざへび^{ひと}つかい座^{ひと}の一つで、ラムザタワーから^み見^みえますよ。

1965: リヴィウポグロムなどの^{ぎやくさつ}虐^{ぎやくさつ}殺^{ぎやくさつ}は、二^に度^どと起^おこしてはならぬものだぞ。

1966: 湯^ゆ冷^ざましでグチュグチュとうがいしてたが、ひょっとして^{ねぼ}寝^{ねぼ}惚^{ねぼ}けてた？

1967: ギャニャールで八^は百^{ひゃく}人^{にん}死^しんだが、病^{びょう}因^{いん}は寄^き生^{せい}虫^{ちゅう}らしいぞ。

1968: ああ、プロヴェンザノは、ジェレンツァーノの墓地に 葬 られたよ。

1969: シェーファーは若 者と 交わり、ヴェラッツァーノは拒否した。

1970: 硫黄の匂 いに、豚はぶーぶー、猫はミャーミャー鳴いてるってば。

1971: スイルギェーイエヴィチュの 探 求 力 は、頭抜けてたからな。

1972: サピエハは寒気でゾクゾクしていたが、律儀に日課をこなす。

1973: デュフレーヌが寝入る時間に、こっそりベランダで煙草を吸う。

1974: ヴィプケは同 姓と遊ぶと、すぐへとへとに草臥れる。

1975: ディンゼオは頑 丈で、ベッヒャーのチョップ程度なら無傷だよ。

1976: まさか下 町の賭場で、ベルシャツアル殿を目撃するとは。

1977: 二足の靴のパティースを、並 行して進めてもらう。

1978: 得意の模写で、セミョーノフを挫折させるとは、あんた只 者じゃないな。

1979: 僕は明日、ベランジェとドゥアベレに発つから、留守を頼むよ。

1980: 玄 米から糠を除き忘れ、思わずデヨーと声が出た。

1981: チェルニウツィーで、カンビャーゾに殴られた打撲が痛い。

1982: 拘 束されたユフィは、湯葉を指に巻いていたら、ユーフォーを見た。

1983: 点字のことで略 式 起訴されたが、友のエールで夜は眠れる。

1984: 汚れた気持ちは、貴族とウェカピポを聴いたら忘れたよ。

1985: ソルジェニーツィンとテュローは、中 東 の歴史をレポートにまとめた。

1986: ジョネットは、過去にホビョト語を習ったが、すでに覚えてない。

1987: アニューシャが憎いとしても、ペタバイトのエスエスディーは欲しいだろ。

1988: やっぱりポッシュは、パリとツォディロを 訪 れることにした。

1989: チャコールグレーのスーツを着た^き彼女^{かのじょ}は、無事^{ぶじ}に復職^{ふくしょく}した。

1990: クォールズは、ペルセフォネの悪巧^{わるだく}みを阻止^{そし}すべく、働^{はたら}きかけた。

1991: ちょっとゴタゴタして、ヴォコーダーの音色^{ねいろ}チェックを^{わす}忘れちまった。

1992: ファンタジーの世界^{せかい}では、不思議^{ふしぎ}と彫像^{ちやうぞう}が切り札^きになる。

1993: 酒豪^{しゅごう}で知られるグウイだが、バーボネラだけは^し苦手^{にがて}である。

1994: ロボットがピポピポと鳴り、ユーポはヒェッと^な声^{こえ}を上げ慌^あてる。

1995: 激怒^{げきど}したペーテヤが振るう拳^ふに^{こぶし}当たると、死ぬ^あと思^しうぜ。

1996: ビュフォードは、溶岩^{ようがん}に飲み込まれる夢^のを見て、飛び起きたって？^こ

1997: 微笑^{びしょう}を浮かべるピャトノフだけど、あの戯言^{ざれごと}を聞けば無理^きはないな。

1998: 君^{きみ}は、キャンクァンジからプライベートジェットで来た、ボルジェスだね。

1999: ヴェルディエは意志薄弱^{いしはくじゃく}で、風見鶏^{かざみどり}だと陰^{かげ}で揶揄^{やゆ}されるほどだしな。

2000: 布^{ぬの}を鮮やかに^{あざ}彩^{いろど}るなら、ヴォジーシェクの教え^{おし}が欲しいな。